



復刊第99号  
題字 吉岡 弥生

第二十九回定時総会特集

昭和59年5月26日 / 神奈川県立県民ホールにて

会長挨拶

会長 三神 美和



第二十九回定時総会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。総会も本会が戦後再出発してから、今回で二十九回目を迎えたかと思うと感無量であります。顧みれば、第一回総会は喜びに満ちた会員によって盛大に行なわれ、日比谷で再出発に向かつての第一歩を踏み出したのであります。

本日はそれにも増して、全国津々浦々から多数の会員がご出席下され、かくも盛大に第二十九回総会が開かれました。これはひとえに会員の皆様の日本女医会に寄せられるご協力の賜であります。これにも増して関係ありますのは、開催地神奈川支部の皆様との並々ならぬご熱意によるものであります。稲生支部長はじめ、神奈川支部の皆様にお礼申し

上げます。一年も前から会場の確保について心を砕かれ、知事様はじめ県当局のご理解のもとに、この立派な会場も確保され、また総会に附属する数々のご準備に対するご配慮など、大変なお仕事でした。支部会員の皆様のご協力によってかくも立派な総会が開催できまして、心からうれしく感謝申し上げます。

さて社団法人は年度の変わり目にその二ヵ月以内に総会を開き、会員の皆様に、前年度の事業報告、決算の承認、今年度の事業計画および予算の審議、承認をいただくかねばならぬことになっております。これが本総会においても最も重要なことでありまして、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。事業報告、事業計画など各部の担当理事の方より申し上げますし、またすでにお手許に配布された書類でおわかりのことと存じますので、あえて私が蛇足を加えることはありませんが、ここで私は主な項目をとり上げて申し上げます。私の考えを述べたいと存じます。

日本女医会の活動は、第一が会員を対象としたものでありますが、その他対外的に渉外関係のものがあります。五十八年度においては会員に對し、学術部門では、すでに会誌九十八号で野呂幸枝先生のご報告を見られたと思いますが、大阪において学術講演会を開催いたしました。その特別講演は、大阪大学遺伝学教授本庶佑教授の「遺伝子操作の臨床へ

もくじ

第二十九回定時総会特集

会長挨拶……………三神 美和 (1)

定時評議員会議事録…………… (3)

定時総会議事録…………… (3)

総会を終えて……………稲生 褒 (5)

総会奮闘記……………森田 和子 (5)

講演会「医の倫理」……………中山 恒明 (6)

懇親会を終えて……………中濱 昌子 (8)

観光/Aコース 観光Aコースに参加して……………塚原千代子 (9)

観光/Bコース 箱根観光に参加して……………金田八重子 (9)

吉岡弥生賞を受賞して……………佐伯 輝子 (10)

私の健康法……………三神 美和 (11)

厚生大臣賞、読売新聞社賞を受賞して……………渡部 トキ (11)

忙中閑／みやまきりしま……………熊谷美津子 (12)

一九八五年度第十三回CWAJ海外留学奨学生募集のお知らせ…………… (2)

吉岡弥生賞候補者推せんについて…………… (4)

学術研究助成のご案内…………… (7)

学術講演研修会ご案内…………… (10)

予告／荻野吟子百年祭行事について…………… (11)

理事会議事録…………… (12)

会員動静…………… (14)

編集後記…………… (14)

の応用の可能性」というもので、出席者一同非常に感銘をうけました。現在の先端を行く学問を、わかり易く解説される若い世界的学者の頭の好みに一層の感激を味わい、これを企画された学術部の先生方に感謝申し上げたのでした。また同時に行なわれた吉岡弥生賞受賞者の浜田雅先生、藪内英子先生のお話も大変ご立派で、さすが吉岡弥生賞受賞者だけあると感心しました。この研修会は毎年行なわれ、学術部の先生が頭をしぼり、いつもよい演者を選んで下さいますが、ただ出席者が百名に満たないことが残念に思います。今秋は岡崎で開く予定になっておりますので、多数のご出席を期待しております。

学術部として例年通り、学術研究助成を全国的に募集しました。二十三題の応募者があり、その中から五名が選考されました。二十三題の研究はいずれも甲乙つけ難い立派なものであり、もっと多数の方に助成してあげたい思いがいたしました。若い方々の研究心の旺盛なことと、その内容の勝れていることに喜びを禁じ得ませんでした。日本の女医の発展のために心から応援したいと思えます。

今年には吉岡弥生賞として、社会に貢献された方として佐伯輝子先生がえらばれました。横浜のドヤ街ともいへば所にある寿町診療所に勤務され、心身ともに荒廃した人々の診療に当たられる

ご功績によるものでありまして、医の倫理を地で行く方として、またひろい心の持ち主として、尊敬申し上げる次第であります。

渉外関係として国内は主に柳瀬理事が担当し、国連N.G.O国内委員会や、国連婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会などに出席され、国内婦人団体の活動と歩調を合わせしておりますが、他に医学団体関係として、日中医学協会に本会は賛助会員として参加し、理事と監事を出しております。日中医学協会が、このたび財団法人として発足しようとしておりますが、先日の理事会で(日中医学協会)その発起人の一人として、会を代表して私が名を連ねました。よろしくご後援いただきたいと存じます。

国際交流としては、ご承知の通り、山崎倫子副会長が、国際女医学会連絡書記として、国際女医学会と密接に連絡しております。その連絡事項は、会誌ごとに詳しく記載されておりますのでよくご覧いただきたいと存じます。また書類にのせてありますように数多くの国外よりの訪問客がありますが、国外渉外担当の佐野アヤ子理事を始め、渉外部、時に理事会が交流の会を催しております。国連関係といえ、山崎倫子先生には昨年国連総会に政府代理婦人代表に任命され出席され、立派な成果をあげられました。このことは日本女医学会として喜ばしく、本会の誇りでもありと存じます。

以上、学術、渉外関係の主なものをとりあげましたが、ここに一つ付け加えさせていただきますのは、東京都支部連合会結成のことであります。東京都は二十五の支部に分かれておりますが、今までこれといった活動もできませんでした。そこでかねてから千名近い会員が一つにまとまったら、何か社会に貢献する仕事ができるのではないかと考えていました。昨年始めからこの考えの下で、二十五の各支部長を通じ、会員のお考えを纏めていただきました結果、賛成多数を得ましたので、支部長を中心として準備を重ね、東京都支部連合会という名称で今年二月十九日発会式を開き、五月十九日第一回総会を開催しました。

ばらばらになっていた支部が連合することによって、東京都が総会を受持つときも、地方の方々にサービスすることができると思います。第一回総会で決まったことは来年行なわれる筑波の科学万博への医療奉仕であります。日本女医学会全体として受け持つてもよいのですが、全国的という規模が大き過ぎるのと、開催地が片寄っておりますので東京都支部連合会が主軸となり、近県または有志のご参加をおおぐという形になりました。いずれ具体的なことが決まり次第発表したいと存じますので、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

五十九年度の事業として例年のことその他に国内的に一つ皆様にご参加

### 1985年度第13回CWAJ 海外留学奨学生募集のお知らせ

CWAJは、世界各国の大学で学んだ婦人達からなる奉仕団体で、英語を共通語とし、文化、教育面での国際交流を深めるために下記の要領で海外留学奨学生を募集しています。詳細は本部までお問い合わせ下さい。

1. 募集人員 3名
2. 支給額 各250万円
3. 期間 1985年9月より1年間
4. 資格 応募者は、国内の4年生大学を1984年6月までに卒業し、現在国内に在住する日本女性で、更に高度の専門的な研究のため海外の英語を主要語とする大学院・研究機関へ留学をする人。帰国後は留学経験を生かした職業に従事することが望ましい。
5. 出願〆切日 1984年9月8日。

\*お問い合わせ・連絡先  
日本女医学会本部  
東京都渋谷区渋谷2-8-7  
青山宮野ビル TEL 03(498)0571

していただきたいことがございます。それは女医一ノ荻野吟子女史が公許の医者となって今年が百年目に当たるため、女医発足百年を祝い荻野吟子女史を称える会を催したいということでありまして。そのための腹案もありませんが、それには多少経費もかかるので、一口千円一口以上ということとで会員の皆様から募金したいと思います。何卒ご賛成の方はよろしくお願い申し上げます。

今年七月末にカナダにおいて国際女医学会が主催されます。何卒多数ご出席していただきたくお願い申し上げます。

最後に私が日本女医学会について感じておりますことを申し上げます。最後には本総会が実現するものであるよう皆様のご協力をお願い申し上げます。日本女医学会のますます発展することを祈念して、私の挨拶いたします。

最後に私が日本女医学会について感じておりますことを申し上げます。最後には本総会が実現するものであるよう皆様のご協力をお願い申し上げます。日本女医学会のますます発展することを祈念して、私の挨拶いたします。

定時評議員会議事録

日時 昭和59年5月26日(土)
場所 神奈川県立県民ホール(横浜市中区山下町三二一)

午前十一時開会
司会/荒木 律子

社団法人日本女医会評議員会開会に際し

評議員数 一一二名
出席数 六〇名
記名委任数 二一名
白紙委任数 一四名 合計95名

以上のとおり日本女医会定款第二十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。
会長挨拶 三神 美和
報告

一、会務報告および事業報告 明石 み代
配布済みの資料にもとづいて報告あり。

二、昭和五十八年度特別会計報告

吉岡弥生賞基金会計 蓮井 敏子
国際女医会議記念事業基金会計
年金会計

ルーパーンダン会計
以上について配布済みの資料にもとづいて報告あり。

議長選出

竹内 静香

議事録署名人選出

日野子ヨコ・藤田 楯

議事

第一号議案

一、昭和五十八年度一般会計収支決算
配布済みの資料にもとづいて説明あり。
佐藤千代子

二、剰余金処分案 佐藤千代子



会 場 風 景

剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決する。

会計監査報告 西山喜代子

昭和五十九年四月十八日監査の結果、適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和五十九年度事業計画案

(学術部)

藤井 倚子

1 講演研修会

昭和五十九年十月二十七日、岡崎国立共同研究機構生理学研究所の江橋節郎教授に講演を願う。

2 研究助成

イ 会員および医科大学へ募集する。対象は医学分野の発展と向上を図るため優れた研究者に対し、研究助成をする。助成者は五名から六名、助成金は一名につき三十万円、申し込み締切は、昭和五十九年十二月二十五日。

ロ J I M S A (日本国際医学

生交流連盟)へ助成。

3 吉岡弥生賞

会員で医学に貢献した会員および社会に貢献した会員に授与する。受賞人数は原則として各部門一名ずつ、賞金は一名につき三十万円。申し込み締切は、昭和五十九年十二月末日。

(事業部)

一、へき地診療への助成 石原 幸子
無医地区における医療診療に対し、補助する。

2 公衆衛生の向上に対する助成

と地域における福祉事業に対する助成を行なう。

3 支部助成

昭和五十八年度会費納入者一件につき、二百円を支部運営費として還付する。

4 年金

日本女医会年金制度への加入の

勧誘をする。

5 ルーパーンダン増収をはかる。

(渉外部)

1 国内交流 柳瀬 路子
国連NGO国内委員会、国際婦人年連絡会等に協力していく。

2 国際交流

国際女医会第十九回国際会議が本年七月二十九日から八月三日までカナダのバンクーバーで開催され、日本から八十五名出席予定である。

(広報部)

1 機関紙の発行 八木 貞子
「日本女医会誌」を四月、七月、十月、一月に発行する。十月に発行する会誌が復刊百号にあたる。

以上承認

定時総会議事録

日時 昭和59年5月26日(土)
場所 神奈川県立県民ホール(横浜市中区山下町三二一)

午後一時十一分開会

司会/野沢 良美

社団法人日本女医会総会開会に際し
会員数 二、七九六名
通知発送数 二、七八〇名
出席数 二〇六名
記名委任数 六八九名
白紙委任数 三七八名 合計1,273名

以上のとおり日本女医会定款第二

第三号議案

昭和五十九年度一般会計収支予算案 丸山 芙実
配布済みの資料にもとづいて説明あり。 承認

第四号議案

次々期総会開催地について
開催を引き受けてくれる支部が、現在ないので立候補してくれる支部を願う。

閉会を宣し評議員会を終了する。
午後零時十五分開会

議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十九年五月二十六日

議長 竹内 静香

議事録署名人 日野子ヨコ

議事録署名人 藤田 楯

議事録署名人 藤田 楯

十七条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 三神 美和

一、本会が戦後再出発してから、今回で二十九回目を迎え、全国津々浦々から多数の出席者を得て感無量である。

二、総会開催地の稲生 粟支部長はじめ、支部会員の皆様には一年も前から会場の確保やら、準備に心を砕かれ、立派な総会が開催されたことを感謝する。

三、社団法人は、年度の変わり目二

三、社団法人は、年度の変わり目二

三、社団法人は、年度の変わり目二

三、社団法人は、年度の変わり目二

三、社団法人は、年度の変わり目二

三、社団法人は、年度の変わり目二

カ月以内に総会を行ない、前年度の事業報告、決算の報告、今年度の事業計画および予算案の審議、その承認をいただきたい。昭和五十八年度の各部での主な活動は、別紙事業報告のとおりである。

四、当会の東京都内各支部間の相互の連絡をはかるためと本部の事業に協力することおよび懇親融和を目的とすることで、このたび東京都支部連合会が発足し、科学万博の医療奉仕事業をする予定である。

五、荻野吟子女史が日本における公許女医一号誕生から百年にあたる今年、偉大なる功績を讃え、その志を後進に伝えるため記念事業を企画した。その一つとして荻野吟子賞設定のため、基金の募金にぜひ協力してほしいと挨拶あり。

物故者への黙禱  
昭和五十八年度会員物故者二十一名に慎んで黙禱。

報告

一、会務報告および事業報告  
久保田くら

配布済みの資料にもとづいての報告あり。

二、昭和五十八年度特別会計報告  
佐藤千代子

吉岡弥生賞基金会計

国際女医学会記念事業基金会計  
年金会計

ルーペンタン会計

以上について配布済みの資料にもとづいて報告あり。

三、国際連絡書記報告  
山崎 倫子

1 国際女医学会本部の事務局がドイツのケルンに移り、ドクター・ムツェル専任書記が、連絡に当たっている。

2 国際女医学会第十九回国際会議は本年七月カナダのバンクーバーで開催され、日本から八十五名出席の予定である。  
○ 学術論文提出は堀口 文先生、野沢良美先生から二題ある。

○ 国際女医学会五十年会員として百十九名表彰される。

3 国際女医学会第二十回国際会議は、一九八七年四月二十六日から五月二日まで、イタリアのソレントで開催される予定である。

議長団選出  
稲生 襄・守安素女・安倍マサ

議事録署名人選出  
青井礼子・木原シヅ子

議事

第一号議案

一、昭和五十八年度一般会計収支決算  
佐藤千代子

配布済みの資料にもとづいて説明あり  
承認

二、剰余金処分案  
佐藤千代子

剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決する。

会計監査報告  
西山喜代子

昭和五十九年四月十八日監査の結果、適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和五十九年度事業計画案  
(学術部)  
橋本 葉子

1 講演研修会  
昭和五十九年十月二十七日、岡崎国立共同研究機構生理学研究所の江橋節郎教授に講演を願う。

2 研究助成  
イ、会員および医科大学へ募集する。対象は医学分野の発展と向上を図るため優れた研究者に対し、研究助成をする。助成者は五名から六名、助成金は一名につき三十万円、申し込み締切は、昭和五十九年十二月二十五日。

ロ JIMSA (日本国際医学生交流連盟) へ助成。

3 吉岡弥生賞  
会員で医学に貢献した人および社会に貢献した会員に授与する。

受賞人数は原則として各部門一名ずつ賞金は一名につき三十万円、申し込み締切は、昭和五十九年十二月末日。

(事業部)  
石原 幸子

1 へき地診療への助成  
無医地区における医療診療に対し、補助する。

2 公衆衛生の向上に対する助成と地域における福祉事業に対する助成を行なう。

3 支部助成  
昭和五十八年度会費納入者一件につき二百円を支部運営費として還付する。

4 年金  
日本女医学会年金制度への加入の

吉岡弥生賞推せんについて

昭和六十年吉岡弥生賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるよう、お願いいたします。

なお次の書類を添え、ご推せんをお願いします。  
一、自筆履歴書  
二、業績  
イ 医学に貢献した現会員  
ロ 社会に貢献した現会員  
三、推せん理由

勧誘をする。

5 ルーペンタン  
増収をはかる。

(渉外部)  
柳瀬 路子

1 国内交流  
国連NGO国内委員会、国際婦人年連絡会等に協力していく。

2 国際交流  
国際女医学会第十九回国際会議が本年七月二十九日から八月三日までカナダのバンクーバーで開催され、日本から八十五名出席予定である。

(広報部)  
八木 貞子

1 機関紙の発行  
「日本女医学会誌」を四月、七月、十月、一月に発行する。十月に発行する会誌が復刊百号にあたる。

以上承認

第三号議案  
昭和五十九年度一般会計収支予算案  
丸山 芙実

配布済みの資料にもとづいて説明あり。  
承認

第四号議案

次々期総会開催地について  
三神 美和  
開催可能な支部の候補がない場合は東京で開催することを決定する。  
荻野吟子賞設定に関して質疑応答があり、募金額により今後理事会で検討する。

表彰

一、学術研究助成金授与  
河合紀生子 児玉 浩子  
田中 寿子 成瀬 清子  
水村 和枝(欠席)

二、吉岡弥生賞  
佐伯 輝子

閉会の辞  
午後三時十五分閉会  
議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十九年五月二十六日

議長 稲生 襄

議事録署名人 青井 礼子

議事録署名人 木原シヅ子

# 総会を終えて

神奈川支部 稲生 襄

第二十九回総会が五月二十六、二十七日の両日、神奈川県で開催され、全国各地から二百六名のご参加を得て、無事終了いたしましたことは、各方面の絶大なご協力の賜と深く深く感謝申し上げます。

五十七年五月総会のほんの少し前に五十九年五月総会の件をお引き受けして以来ほぼ二年、東京、愛知につぐ会員数を有しながら、支部総会その他への集まりは思うにまかせず思案しておりましたが、東京オリソニックが開催間際まで突貫工事で行わいらしていたのが、あのように立派に開催できたことを思い、なんとなかなるのではないかと思ひながら、一年前からやっと本腰を入れて、会場の獲得、講演者の決定など、徐々に準備してまいりました。

幸いなことに、神奈川支部では国際女医学会東京大会の前年（昭和五十年）から英会話受講を十名くらいずつづけているので、この週一回の集まりが格好の話し合いの場となり、月一回はその他の集合可能な方にも加わっていただき、準備会を催しま

した。

開催日が近づくにつれ、集まりは多数となり、受持分担も快く引受けて下さる方がしだいにふえてきました。また神奈川には、本部役員や役員経験者が多く、何かにつけて貴重なアドバイスをして下さったのは大変な強味でした。また数年前、神奈川で研修会をなさった鶴風会の方々が、開催直前になつてもすこい迫力でご奮闘下さり、経験を生かして下さったのは心強い限りでした。

当日は総会会場と懇親会会場が徒歩五分の離れた場所だったので、天候を一番心配していましたが、幸運に恵まれ、翌日の観光も暑からず寒からずの天候で、まずまず何よりでした。交通渋滞のために鎌倉方面の帰りがやや大変のようでしたが、箱根方面はまったく順調で、予定通りに着き、一安心でした。富士山の眺望は十一月から二月までの寒い季節がもつともすばらしいのですが、やはり今回はロープウェイも断念しました。講演をお願いした中山恒明先生は

若者をしのぐお元気で実のあるお話を下さり、皆さんによるこんでいただいたようで、よかったですと思っております。

懇親会は予定を上廻る参加者で、開催間際の参加希望者はお断わりしたほどでした。明治のころ、舞踏会が開かれたというレインボー・ポールームで県知事、県医師会長はじめ六名のご来賓からすばらしいご祝辞をいただき、洋食に舌鼓をうち、オーケストラ、コーラス、獅子舞を楽しみ予定時刻に終了、知事さんが最後までおられることは本当に珍しいとのこと、一同感激しました。

今回神奈川支部会員の胸につけたブルーのハンカチは県のシンボルカラーで、格好のマークでしたが、ご感想はいかがでしたでしょうか。

総会の開催は気の重いことですが、日本女医学会の存在を県内各官庁へPRする絶好のチャンスです。そして会員も会を再認識する好機です。かくれた人材、思いがけないいろいろな力を発揮できる時と思つて、進んで全国各地で開催地を気軽にお引き受けすべきと思います。

最後になりましたが、前開催地の岡山県や愛知県から貴重な資料を拝借し、大助かりしましたことに深甚の謝意を表し、総会のご報告とさせていただきます。

\* \* \*

# 総会奮闘記

神奈川支部 森田 和子

まずまずとどこおりなく、総会を終える事ができ、何よりと感謝します。約二年ほど前から今回は神奈川が引き受けざるを得ない状況です。から、そろそろお受けしようという雰囲気になっていましたところ、最終決定となりました。

さて本番ともなればその気になつてがんばりましょうと、稲生支部長を中心に数名のスタッフが準備にかかりはじめました。さらに半年くらい前からは少しずつ具体的に分類化され、分担別に役割を決め、それぞれ実際活動となりました。支部長について庶務一手を引受けられた中浜先生の仕事が多量なため私には宿泊係（ホテル関係のみ）を

かって出ました次第。旅行会社にはまかせず、きめ細く考えたつもりですが、実際に当たってみますとなかなかままならず、ホテル側から、一、二、三、四人用と部屋数を申ししてきましたので、なるべく皆さんご希望に沿うべく組合せをしました。しかしそれぞれ諸先生のご都合が悪くなり欠席の止むを得ない事態が次々

起こり、その間にも各地へ電話で問い合わせをするなど、一回ではスムーズに話がまとまらず、またルームメイトの先生が突然具合が悪くなるなどのこともあつて、何回かの組合せ変更の結果最終決定したのは総会前日でした。

また各方面からはそれぞれに寄附をいただき、おかげで安心して準備に取りかかれました。本部はもちろん、官庁各方面（県・市）そして県市医師会、医薬品、乳業関係まで幅広く、そして会員各位からも相当数のご協力を得て予想以上に集まりました。ここに誌上をかりて厚くお礼申し上げます。

一方官庁へはもちろん決算報告しなければなりません。開催前日に県当局から呼び出しがあり、具体的説明に支部長が参り、女医会なるものの実態を説明し、研究者（女医）への助成金交付及び吉岡弥生賞などについて改めて認識していただきました。私もいろいろな手続の諸条件など、大変勉強になりました。ほとんど支部長独りで東奔西走、本日に

「ご苦労さまでした。いままでの開催諸先輩方もご苦労なさいましたことでしょう。実際今回当事者となつてはじめてよくわかりました。何でも経験してみないとわからないものです。それにしてもこのたびこの大役を引き受け、県下一回会員諸姉が一丸となつて一生懸命準備したことは非常に貴重なことでした。普段の支部

講演

『医の倫理』

東京女子医大消化器病センター名誉所長  
中山 恒明 研究所長



中山恒明先生

ドイツにクレンペラーという有名な内科の先生がいます。ご年輩の先生方は、ダイアナノースという薄本を大抵お読みになったと思います。

総会に、それぞれ都合が悪く、多くの会員が集まる事はあまりありませんでしたが、今回こんなに多勢が出席できましたことは未曾有です。「やればやれるものだ」と意を強くしました。これを機会に皆さんが女医の存在意義及びその役割について再認識されたこととうれしく思います。

中山 恒明

ですが、これではなく、クレンペラーの医学全書というのがあります。四十八冊の大著です。第一版が一九〇〇年、私が生まれる十年前に出ています。

まず、医療は、と書いてあります。病人を治療することである。その治療に際しては、医学を学ばなければならぬ。医学はイッシンシャフト、科学である。この分野は日進月歩である。したがって怠けていては時代におくられる。と同時に、治療というものとは、病人を相手にしている。病人とは、人間がそこにいるということから始まる。病氣は科学であるから、

統計やスライドでごらんに入れることもできるし、コンピューターではじきだすこともできます。しかし病人の治療ということになると、そこに人間がいるのです。人間というのは摩訶不思議な動物で、同じ言葉をしゃべっても、同じに理解しない。十人十色で、全然別です。同じ病氣になつて、同じ治療をしても、同じ効果はあらわれない。したがって、臨床医学、医療というものは、一生涯の勉強である、と一九〇〇年、今を去る九十年の昔に、そういうことがちゃんと書いてあるのです。

いま、われわれが何を反省しなくてはならないかを考えてみますと、ついこの間も、私、大学を定年になつてから—それまで忙しくて先進国ばかり行つていたんです。先進国でも私たちよりおこなっている部門はいっぱいあるので、それを教えていたのですが、定年後、時間ができたので、後進国をずっと教えに行きました。ボリビア、ホンジュラス、キューバ、ヴェネズエラ、エクアドル、ああいうところをずっと廻つてみていかに世界は広いか、また世界にはいかに恵まれない国が多いかということをつくづく身にしみて感じました。

私がここで強調したいのは、現在の日本は大変物質に恵まれているということなんです。ついこの間、ネパールへ行ってきました。ネパールでは総理大臣だけがよつと太つていて宴会ではいつも三人前ぐらい食べて

いました。ところが厚生大臣も文部大臣もみんなひよろつとして、私よりやせているくらいです。

私、四年ほど前に禁酒しました。それまでは毎日角瓶一本飲んでいました。それでよく酒をやめられましてたねといわれます。私は以前からたびたびインドへ教えに行つていたのですが、インドは禁酒国で、酒は一滴もない。向こうで教えている間は一滴も飲めません。あると思うから飲みたくなるわけで、ないと思えばいいわけです。それで酒をやめてしまいました。

ただ、行く前に仲間が、ネパールやインドには肝炎がいっぱいある、大抵肝炎ビールスがくつついていて、うっかり生の牛乳を飲むな、アルコールなら消毒するから大丈夫だけれど、ミルクはだめだぞといわれました。けれどもアルコールは飲まないで、牛乳がほしいのだがとい

つたら、厚生大臣が、私の知つていた牧場から朝ぼつたのをもつてきてやるというので、翌朝楽しみにしていたら、ちゃんと届きました。それで飲んでみたら水みみに薄い。それで、これは水で割つてあるのかと聞いたら、冗談じゃない、中山先生に飲ませるのに水を割るわけがないという。それじゃこの牛見せてくれないかといつたら、自動車で案内してくれた。見たら、牛が骨皮筋工門です(笑)。全然栄養不良なんです。だから、栄養不良の母牛は、水みたいな牛乳しか出せないということが

よくわかりました。ということは、人間が十分に食べるほどないのですから、牛に回すほど穀類がないということなのです。

そういう国もあるんだということに皆さん理解していただきたい。

人間のキャパシティ、持つ量というのは、決まっています。そうすると、心の問題がだんだん物に置きかえられてしまいます。医療というのは、人間相手、人間医学というのが半分です。そして、コンピューターでできる医学、科学が半分です。それがだんだんと、CTとか、超音波とか、自動測定機などができて、いろいろな検査をどんどんやります。

いまの若い連中は、患者の顔を見て、これは重いか軽いか、わからないのです。全部データで判断するのです。山の中へ行つて開業したら、一体どういふことになるだろうと思ひます。検査というのは科学です。科学偏重なのです。病人というのは、人間が科学である病氣を持つた状態ですから、その両方を正しく判断しなければいけないのです。

そこで、一体「医の倫理」とは何かということですが、医というのは世界医師会の宣言にも、ヒポクラテスの誓いにも、ちゃんと書いてあります。人類に奉仕する職業である、と。奉仕ですから、奉仕でどうかつたりしては本当はおかしいわけです。大体、奉仕のようなことをすれば、相手が人間であれば、その人たちに

感謝されます。尊敬されます。それが楽しいという人たちがなる職業なのです。

二十万人近くいるお医者さんのうち、ほんの三人か五人がおかしなことをします。われわれがとも考えられないような、金もつけをする人がいます。

国家は、いま医療費を圧縮しようとしています。ですから、それに便乗して、あたかも全部のお医者さんがそういう悪徳をやっているかのような宣伝をします。これは国民のために悪いとは思いますが、こういうふうにいわれると、本当にまじめに一生懸命にやっている大多数の先生方も、相手の身になって本気で奉仕するという心がなくなってしまう。それは国民にとって大きな損失だと思います。

とくに日本の医療制度は、世界でもまれに見る不合理なものです。極端な例をいいますと、ことし卒業して医師免許証をとった人もわれわれも診療費は同じなのです。実際には私のところへ入るのは十分の一以下なのです。なぜかという、私がやるとよく治ってしまう。薬も要らない、日にちもかからない、入院も短くてすむ。これがちよつとこしらせると薬はたくさん要る、入院は長くなる、へたをすると死んでしまうということになります。それで大体十倍から二十倍入ります。ですから基本的にどこか間違っている。この間違ったの源はどこだろうかということ

を考えてみました。

明治の元勳がヨーロッパやアメリカへ行つて、向こうの科学が非常に進んでいることを身をもって知りました。そこで、外国の教育制度をそのまま日本へ持ってきました。そしてできるだけ早く追いつこうと。しかし、そのままをやつていても、いつも平行で、向こうが突出しているだけ、こつちは追いつけないわけです。そこで考えたのが博士制度なのです。博士制度というのは、大学を卒業して二年以上教室に残つて、独自の、要するにオリジナルのテーマで勉強して、それを論文にして、それが博士に値する論文であれば、博士を与えるということです。

ここで、一つ大きな間違いをしました。これが日本人の欠点であり長所でもあると思うのですが、日本人というのは細かいのです。したがつて、文学をやった人が、ただ博士だけではおかしいではないかと、一つ一つ、文学は文学博士、法学は法学博士、医学は医学博士にしたいだろう、そうだとどうということになったのです。ところが、文学博士でも、小説を書いておもしろくなければ売れない。法学博士でも、弁護士になつてうまく弁護しないと、頼み手がないのです。

ところが、医学博士では、博士という一つのタイトルが、一人前の臨床医であるという証明と誤解されてしまいました。その時点で臨床も基礎も東大の教授だけが博士だった

のです。臨床は大体十年か十五年いないと博士にしません。基礎は大体二年です。そこで臨床の先生が、おれは博士だから、もうほかに専門医というようなタイトルは要らないと考えちゃった。それが大きな間違いです。

いま、世界の主な国で専門医制度のないのは日本だけです。医学博士というのは、医学を勉強したということだけで、なにかの専門医だということではありません。そこで各学会が専門医の制度をつくらうとしていますが、大変なお金もかかるし、社会的な理解がなかなか得られない。いまから十六年前に、私、学術会議の七部の副部長をやつていました。そのときに、日本の医療制度がこのままでは、やがて医療は荒廃してしまふ。だから新しく、プレメディカルはこうやつて、どういうメディカル・コースで、どういうポストグラデュエートコースで、そして専門医コース、何のコースと、全部設計図をつくらうとしました。ところが、

学術会議というのは文科の先生もいる、法律の先生もいる、経済の先生もいる、日本の頭脳が集まっているわけですが、その先生方にわからないのです。

特別研究委員会をつくらうという提案に、われわれはいま満足している、そんな必要はないというのです。それで私はいつてやっただけです。私なんかは卒業して十年間、無給で勉強してきたんだ、そういう人たちが

### 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがつて、事務局あて申請下さるようお願い申し上げます。

#### 一、助成の趣旨

医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

#### 二、助成金額

総額一五〇万円(五十六件)

#### 三、申込手続

##### (1) 応募資格

日本女医学会会員(新規加入者を含む)で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

##### (2) 助成期間

一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。

##### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキで記入。  
正一通と副一通(コピー)を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

##### (4) 申込期間

昭和五十九年十二月二十五日必着

##### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、昭和六十年三月開催の日本女医学会理事會において決定し申請者宛通知する。

##### (6) 助成金の贈呈

昭和六十年五月開催の日本女医学会総会の席上。

##### (7) 受賞者の本会に対する義務

昭和六十一年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

##### (8) 送り先

日本女医学会本部(東京都渋谷区渋谷二一八一七) 電話 〇三三四九八〇五七二

今先生たちが診てもらったお医者さんになって。ところが、これからの人は、全然勉強しないで大きな顔をするようになる。医者にかかったら死んじゃう時代が来ますよ、といったんです。そうしたら研究会がらいつくろうということになったのですが、後が続かない。要するに、そのレベルに日本がなかったということなのです。

いまからでも遅くないと思います。そういうことをきちんとやって、いいものはいい、悪いものは悪いとはつきりさせることが、本當の倫理なのです。特に外科では、適応という問題があります。教科書どおりにやることは簡単です。ガンがあつたら取ればいいと書いてあります。そのとおりです。しかし、取つたら死んじゃつたというのでは意味ないわけです。

医療というのは、先ほどから何回かお話ししているように、病人を治療することなのです。病人とは病氣をもつた人間です。人間は十人十色で、年齢も違ふし、知識も違ふし、一人として同じ人はいません。その違ふ人を、同じように考えて、相手の身になってというのが一番わかりやすいと思うんですが、相手が一番満足するように治してあげることだと思ひます。それが、あまりいい医者でないのに限つて、おれが治したというようなことをよくいいます。そうではないのです。治つたんです。患者さん自身に治す力があつたわけ

です。

私の先生がよくおっしゃつたことですが、たとえば十点なら十点になつた病氣は死んじやうとする。いま、ちよつとカゼをひいた三点ぐらいの病氣になつたとする。そしてへたな医者にかかつたとする、医者も二点足してくれて五点になる。けれどもまだ十点にはなりませんから放つておいてもいずれば治る。それは自然が一人一人に治す力を与えてあるからです。そういう意味でへつばこ医者でも、みかけでは患者を治

したようなぐあいにはできる。ただお前たちがなる医者というのは、十二点か十三点の病氣から三点なり四点なり引いてやる、そうすると九点になる。死にそうにはなるけれど、十点でないから助かる。そういう引き算のできる医者になりたまた。

病氣になると、心細くなる。医者がおそばにいて、あなた大丈夫ですよ、ちゃんと治りますよといつてくれただけで、薬なんか本当はやらない方がよくなるんだといつていました。

私じやないんです。私の先生です。(笑)

そういう本當のことを踏まえて、日本に生まれた以上、日本の法律に従わなくてはなりません。したがつて、日本で開業している皆さん、だ

●於ホテル・ニューグランド レインボー・ボールルーム(横浜)

### 懇親会を終えて

神奈川支部 中濱 昌子

県民ホールでの総会を終え、会場をホテル・ニューグランドに移しました。

午後五時半、加藤七五三子先生の司会で開会。稲生要支部長の歓迎の言葉に続き、三神美和会長のご挨拶、続いて来賓六名のうち、長洲一二神奈川県知事、岩本正夫横浜市長、清川謹三神奈川県医師会会長、手束和之横浜市医師会副会長よりそれぞれご祝辞を頂き、ついで、宮崎悦子先生の音頭で乾杯、食事にはい

りました。アトラクションの最初は、オルケスタ・メデイカ・ポルターニア(横浜市港北区医師会の先生たちを中心

に同好の方たちで編成)。当日は十三名によるすばらしい演奏で、予定の三十分を五、六分オーバーする熱演ぶりで会場を魅了しました。つぎはコーラス、コーロ・アキ(日本女医学会会員・薬剤師・看護婦・医師夫人で編成)。この日は北村維章先生指揮の下に、ピアノ・ヴァ

イオリン・チェロはプロの演奏で、ユニホームも清楚で美しく、これまたすばらしい音声を会場に響かせてくださいました。

最後は中国の獅子舞。横浜中華街独得のもので、あるいはコミカルに、あるいは荘重に、中国の伝統的な踊りを披露、この会を大きく引き立て、会場の人気を博しました。

森田和子先生の閉会の辞で幕を閉じましたが、百七十名余の盛会でした。会場の都合上、遅いお申し込みの方はお断りするはめになってしまいましたこと、また参加の皆様には、会場が手狭でご迷惑をおかけいたしましたことを、心からお詫びいたします。しかし、お忙しい長洲知事が、延々二時間、最後まで附合ってくださいましたことは感激でしたし、最後の獅子にお金を食べさせる役を三神会長とお二人で演じてくださったのはほほえましいかぎりでした。

これからも努力していただきたいと思ひます。



皆様のおかげで、無事に盛会裡に終わることができました感謝しております。



多くの来賓をお迎えしての懇親会



観光Aコース

観光Aコースに参加して

神奈川支部 塚原千代子

寒くなく、暑くもなしという観光日和に恵まれて、ホテル鎌倉鎌倉華正楼にて昼食→横浜三溪園→港めぐり→横浜駅解散のAコースに参加。午前九時、バスでホテル前を出発、隣席の方と「あれこれ」話しているうちに鎌倉に到着。まず北條政子の案といわれる源平の池(右に白蓮の花咲く源氏の池に三つ「産」の島を配し、左に四つ「死」の島を置いた)を見てまわり、さらに参道を進み、公暁のかくれ公孫樹といわれる大木を左に仰ぎ見ながら高い石段をのぼって八幡宮に詣でる。落ち行



Aコース・鶴ヶ岡八幡宮にて

く義経を慕って「しづやしづ……」とうたいながら静の舞ったという舞殿等を見て、古く永い歴史の跡を偲びながら、再びバスの人となり、窓外に頼朝が政子の安産を願って造ったという、段葛を見て、長谷に向かう。ここにおわず大仏様。まことにおしやれでおいでなさる。バスのガイド嬢によれば髪にパーマネットをおかけになったわが国第一号とか。また歌人と謝野晶子によつては美男と詠まれていらつしやる。その阿弥陀様、茨城県の小学生から贈られた「ワラジ」をばいて、由比ヶ浜あたりをお散歩なさりながら「ハテ私は美男か美女か」等と考えていらつしやるお姿を想像して下さい。そのうち誰か傘をさしかけて下さる方があるかも知れません。大仏様をお詣りした後、鎌倉華正楼で昼食。各のテーブルで話を咲かせながら、おいしい料理に満足。この日がちよど三神会長のお誕生日との事。中浜副支部長よりお祝いを差し上げました。昼食後同じ路を引返して三溪園に行く。ここで記念撮影をし、園内を見物。まだ菖蒲には早く、ゆつくり見てまわれれば見所の多い名園である

が、時間の都合でほんの入口を歩いただけなのが残念であった。赤い靴号での港内めぐりは、陸からの眺めとはまた違った興味深いものがあつた。「赤い靴はいていた女

観光Bコース

箱根観光に参加して

青森支部 金田八重子

神奈川県民ホールでの総会は厳粛な中にも華麗に進行し、いつもの事ながら、わが女医会のすばらしい活躍に感嘆させられます。張りのあるお声で、ユーモアを混え、医局時代からの豊かな経験と実績の中からほとぼりするような、説得力のある中山先生の講演は、「医の倫理は、奉仕の精神」と説かれ、われわれも、うかうかしていられないと身の引き締まる思いがしました。懇親会と宿泊は、山下公園に面した、古い格調高い、ホテル・ニューグランドです。重厚なレインボー・ホールルームで、美味なご馳走、医師会メンバーによるオーケストラ、コーラス、会員令嬢によるエレクトーン演奏の美しい音楽があふれ、獅子舞の観賞をしながら、親しい友との語らい、ヨーロッパの中世貴族になつたような気分です。

箱根はスイートルームで四人ご一緒でした。さっそくお近づきになつ

の子」「青い眼をしたお人形は」と歌った少女の頃を思い出された方も多いでしょう。まこと忙しく、楽しい一日でした。Aコース参加者は四十三名でした。

た同室の先生方と、朝食後すがすがしい朝の公園の散歩は、また格別です。まず、外人墓地、中華街、横浜港と異国情趣豊かな海の玄関口横浜です。この中にある大小の池を中心

に、関西や鎌倉から集められた、しつとり落ち着いた日本建築がほど良くマッチして眺められる日本庭園、三溪園の美しさは、さすが日本の表玄関と感心いたしました。旧燈明寺三重塔、松風閣への坂道をハイヒールでスーッスーッと登られる名古屋の女医さん方の若々しさがとくに印象的でした。中華街「同発」で昼食の後の箱根観光は、待望の富士山は眺められませんでした。濃霧のため残念ながら駒ヶ岳ロープウェイもあきらめて、五時頃早々と着いた龍宮殿は、宇治平等院を模して造られたといわれる純日本風雅びの宿です。全客室が芦の湖に面し、

日本庭園を通して、富士山を眺められます。お部屋は大座敷で六人ご一緒でした。雑談がはずみ、大浴場では背中を流し合い、ハダカのおつき合いです。親交を深めました。龍宮殿の夕食会には、身振り手振りよろしく踊られたB先生、口鳴り入りで風流な小唄を吟じられたA先生、そして我が青森の三上先生の弥三郎節……と多才な芸の続出に夜の更けるのも忘れてしまいます。最後にになりましたが、神奈川女医会の皆様、立派な日本女医会総会を本当にありがとうございました。寄木細工の宝石箱、種々の案内書、その上おやつまで、ごまごまとした心づかい本当にご苦労様でした。充実した満足感に、往復二十時間近くの旅のつかれも吹き飛んで、今楽しい思い出にひたりながら、スナップ写真を眺めています。

箱根までの参加者は二十七名でした。



Bコース・三溪園にて

# 吉岡弥生賞を受賞して

寿町勤労者福祉協会診療所所長

神奈川支部 佐伯 輝子

このたび、昭和五十八年度、吉岡弥生賞を受賞。身にあまる光栄と存じます。これまでに吉岡弥生賞をうけられた先輩の先生方の輝かしい業績を思うとき、私ごとき若輩がこの大賞を頂戴することに身の縮む思いがいたします。しかし、これは、「寿町診療所の「赤ひげ」として今後も頑張るように」と叱咤されたものとうけとめております。

受賞式の神奈川県民ホールで、吉岡弥生賞の基金を寄附された荒川あや先生が、三神美和会長のお声に誘われて、壇上に上られました。紫のドレスを身につけられ、その健在なお姿に感激ひとしおでした。その時私は、寿町診療所の五年間が、走馬灯のように脳裡に甦りました。

アルコール幻覚の男性患者に診療室でカミソリで突然襲われたり、診療所に入る道路で背後から首をしめられたり、と、気の重い緊張感の日日。反面、寿町に住む人々の、飾り気のない率直な人間性に心うたれること、なんと多かったことでしょう。このことが、私の五年間を支えてくれたものと思っています。

五年間は決して、あつという間にも思える時日でした。それほどに充足した日々を、寿町診療所は私に与えてくれました。

しかし、寿町の診療は、看護婦さん、薬剤師さん、ケースワーカーの方、福祉協会の方、みなさんの手がかつちりと組みあわされてはじめて成りたつものであることは、いうまでもありません。私は「テルコ先生が代表して吉岡弥生賞をいただいて来るわよ」という気持で受賞式に臨んだのでした。

そして、もうひとつ、私事ながらつけ加えさせていただけば、主人の理解と協力が得られて、はじめて、寿町のみなさんのお役にたてたのだと思っています。「総会のあとの受賞式で、しかも身内ならば」ということで格別のご配慮を賜わり、受賞式会場の県民ホールに、主人が傍聴することを許されました。私としては「協力してくれた主人に、いくらかでも借りを返したい」という気持

があっただけに、「傍聴はまことに異例のこと」ながら、受賞の喜びが倍増するものとなりました。

今後とも、吉岡弥生賞に恥じることはないように、伝統ある日本女医学会を継ぐことのないように頑張る所

存でございませう。

## 学術講演研修会のご案内

○講師 江橋 節郎(岡崎国立共同研究機構 生理学研究所 教授)

○演題 「カルシウムイオンと生命科学」

○日時 昭和59年10月27日(土曜日)

○会場 岡崎国立共同研究機構(岡崎市明大寺町字西郷中38) および名鉄岡崎ホテル

○集合 午後2時、岡崎国立共同研究機構内生理学研究所(パネル表示の前)

○見学 午後2時10分〜20分間、共同研究機構の説明

○講演 午後2時30分〜3時30分まで

○パーティー 午後4時〜5時まで(於・名鉄岡崎ホテル)

○参加費 午後5時〜6時(於・同ホテル) 無料(ただし、パーティー参加費、一人五千円)

岡崎国立共同研究機構は、日本のNIHをめざす分子科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研

究所の集まりで、研究者にとってはパラダイスともいべき研究環境であります。しかし、研究面での失敗はあり得ないという絶対使命があります。このような重責に挑戦している研究所を見学することは、その意義大なるものがあると考え、今年度学術講演研修会として企画いたしました。ぜひ多数ご参加ください。

### 〈講師略歴〉

江橋節郎教授は東京大学医学部卒、医学博士、東京大学教授を経て昭和58年4月から現職、昭和50年11月文化勲章受賞、昭和53年11月日本学士院会員。専攻 筋化学、薬理学。

### ○交通案内

- ・東京方面から——新幹線・豊橋下車、名鉄に乗り換えて東岡崎下車、南へ徒歩で7分。(豊橋—東岡崎間約25分)
- ・大阪方面から——新幹線・名古屋下車、名鉄に乗り換えて東岡崎下車(新名古屋—東岡崎間35分)

### 電話

\*研究機構 0564(54) 1111(広報調査係)  
\*名鉄岡崎ホテル 0564(23) 3111(予約係)

# 私の健康法

会長 三神 美和

老人が年々増えつづけている日本のその老人の一員である私が「健康法とは何か」という題をいただいて、とうとう私の番になったのかと感無量です。

よくぞここまで生きられた。しかも健康で、というのが実感です。考えてみると特別こうといった健康法も意識せず、ただ日常の仕事は毎日規則正しく繰り返すだけで、いつしか年をとっていったということ、とりあげて申し上げることとてない平凡な生き方でした。

とです。今も時々ゴルフに行くといふと驚く人があります。が球は全然とばなくなりましたが、足だけは確かで、歩くためにコースに出るといふことが私の主義となりました。この足の強さは若い時からの習性によるものだと思います。私は甲府市外（現在は甲府市）の農村で育ちましたのでこへ行くにも乗り物がありません。仕方なく小学校も一キロ、女学校も四キロの田舎道を徒歩通学しました。また女子医専の時も自宅（新大久保の近く）から今の大久保通りを河田町まで歩いて通いました。

ので足が鍛えられたのだと思います。また病院でも廻診をすることで今も足の訓練になっております。必要以外はなるべく車にのらないよう努めております。

「健康に老いる」ことを常に心がけておりますが、そのために日常生活を規則正しくするよう努力しております。元来が田舎者ですから、睡眠も田舎型で、早寝早起型であります。原則として夜は十時就床、朝は五時起床ということにしております。近頃老化現象と思いますが、六時間眠ると自然に目がさめます。これは一つは心理的影響かとも思います。私事になりますが、一昨年二十一年間一緒におりました女中が突然亡くなり、その後一人で生活しておりますので、朝の用意万端一人でやらねばなりません。もともと神経質らしく出勤までの余裕をとっておかねば気がすまないのです。朝の時間が潜在的に気になり、早く目覚めるのだと思えます。母の嫉がきびしかったので、小学校以来遅刻したことはなく、女学校も四年間無欠席だったと思えます。小さい時からの習慣で、それが苦痛と感じたこともなく、生活のリズムが一定で、変わらないことも一つの健康法かと思えます。

私は若い時からあまり肥ることなく体重は五〇kgを越えたことはありません。体質的かも知れませんが、食物の関係かも知れません。好き嫌いがなく、あまり大食せず、間食もとりません。何でも万遍なく食べま



## 厚生大臣賞・読売新聞社賞を受賞して

すが、近頃は動物性脂肪（牛肉、豚肉の脂肪）は避け、料理は植物性の油を使っております。老人には野菜や果物がよいと思えますので、つとめてあまりカロリーの少ないこれらをとるようにしております。

昔から「健全な精神は健全な身体に宿る」といわれておりますが、頭の方はどうかと申しますと、そろそろ老化現象が起こっているようです。できるだけ頭を使い脳を刺激して呆けないよう努力しております。現役でいる以上、日進月歩の医学に少しでも近づくよう努力しております。以上申し上げましたように、特別な健康法とてなく、適当に体を動かして、適当に食べ、適当に頭を使い、あまりよくよせせず、自分の置かれた位置を考えて、その仕事に忠実に取り組むということが、私の終始変わらぬ生き方でありました。今まで生き永らえたことは、測り知れない多くの方々のおかげと感謝しております。今後残された短かい余命を大切に、社会に迷惑をかけないように、また自分のできることがあれば、社会に還元したいと念願しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

福島支部 渡部 トキ

私こと今回第十二回医療功労賞、全国十五名の中の一人として、厚生大臣賞ならびに読売新聞社賞を受賞いたしました。

私も昭和二十年開院以来、交通事情の悪い豪雪地帯の辺地医療に従事いたしましたから、三十九年になり、この九月から四十年目に入ります。駒止峠という標高一、一七〇メートルの難所があり、最寄駅まで九里という所です。冬が早く、降雪は十一月初旬からで、春の遅い地域です。約半年間近くは雪の中の生活とでもいいますよ、うか。

冬期間の交通機関は自分の脚以外にないので歩く外にありませんで

### 予告 荻野吟子百年祭行事について

- 一、日時 昭和59年11月10日(土) 午後一時半より
- 一、場所 新宿・京王プラザホテル
- 一、講演 酒井 シツ先生
- 一、全国日本女医会会員の各地方における、女医の活動についての報告。

- (発表地区) 1 北海道地方 2 東北地方 3 関東地方
- 4 中部地方 5 大阪地方 6 四国地方

- 一、荻野吟子賞授与
- 一、懇親会費(一万円)

現代の女医にとつて誠に意義深い行事と存じますので、皆様にはご多忙の毎日とは存じますが、ぜひお誘い合わせの上、ご参集くださいますよう、お願い致します。

た。腰までの雪を漕いで吹雪の中を往診するのが常でしたが、若かったのでそれほど苦にも思いませんでした。

こんな地域ですので、開院当時は内科小児科で始めたのですが、医者であれば何でもできる村の人たちが願ってくれますので、そのうち産科、外科、肛門に至るまでやらなければならなくなりました。

昭和二十年代は地域婦人に産児制限の話、三十年代は子育てと将来の母を語りました。

五十年代の現在ではもっぱら、老人の健康作りに乗り出しております。二十年代の産児制限が透過し過ぎたのか現在ほとんど過疎になり困ってしまいました。やはり豪雪と困難

な環境ということで都会に出た若い人たちが、長男、長女以外はあまり帰って来ないのです。今後の人口対策については村の全体像が見えて安心できる村になるよう努力したいと考えております。

去る三月二十二日、帝国ホテルにて受賞、翌二十三日新宮殿にて天皇陛下に拝謁いたしました。非常にありがたいことで感謝感激でいっぱいでございます。

これはすべて吉岡弥生先生のおかげであり、私を育ててくれた両親、ほかに私を必要としてくれた地域の人々のおかげです。もう一つ忘れてならないのは一緒に医療活動に従事してくれた夫、渡部次郎医師のおかげでもあります。

小学生の頃、子どもころにも充分な医療を受けられない地域の悲哀を感じました。

医師となり、故郷へ戻ることに与えられた使命でもあったのだと今にして思います。

受賞いたしましたから、あつと過ぎ去った日々に関心をいたしてあります。

いったん医者をこころざしたのですから、生ある限り地域住民と一緒に医として生き抜きたい。死ぬまで医でありたいというのが私の念願です。

女医会の皆様様に心からお礼申し上げます。今後ますますの女医会の発展を祈念いたしまして今回の受賞報告といたします。

忙中閑

「みやまきりしま」

杉並支部

熊谷美津子

日の入りてしばらく保つ明るさの中に一人の時を逝かしむ  
わが心静かならしむ曇日の空より光わづかに差す午後  
たまたまに得し安らぎか満潮の池に音なくわが歩みゆく  
のぼり来し山ひとところ華やぎてみやまきりしま盛り上り咲く  
道に咲く花も天よりそそぐ日も声あるごとく心にぞ沈む

理事会議事録

日時 昭和59年3月24日  
場所 日本女医会 会議室

出席(敬称略)

- 三神、小俣、福永、山崎、稲葉、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、丸山、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川島、関口、蓮井、藤田、三好、山本、添田、西山

欠席(敬称略)

- 久保田、森川、川口、鈴木、野呂、藤井、町田、マッキンストリ、森、山口

庶務報告

野沢常任理事  
2月25日 吉岡弥生賞審査会および常任理事会を行なう。

3月8日 事業部会開催

3月9日 会費3年滞納者(一三三名)へ会費納入依頼を発送。

3月13日 東京都支部連合会準備委員会および会計部会を開催。

3月15日 国際婦人年連絡会へ柳瀬常任理事出席。

その他

(1)日本女医会年金加入者へ年金給付額および預り額の通知を発送。

(2)「昭和58年国民衛生の動向」を購入する。

会計報告

丸山常任理事  
2月分別紙どおり報告 承認

議題

一、学術研究助成について

(1) 第四回学術研究助成応募二二件につき委員会で選考を行ない、五名を決定した報告あり。

イ 田中寿子 慈恵医 昭32卒

ヒト癌組織内におけるリンパ球及びマクロファージの動態と癌進展との関連に関する病理学的研究

ロ 児玉浩子 大阪大 昭45卒

先天性尿素サイクル異常症の分子遺伝学的解析と病態(とくにOTC欠損症に注目して)

ハ 河合紀生子 長崎大 昭40卒

ステロイド産生細胞における脱水素酵素の局在とその動態

ニ 成瀬清子 東女医 昭51卒

腎内レニン・アンジオテンシン系に関する免疫組織化学的研究——生理的、病態生理学的意義の検討——

ホ 水村和枝 名古屋大 昭47卒

末梢性痛覚過敏に関する神経生理学的研究

(2) 学術部から優秀な応募者が、年増加する現状にかんがみ来年度より一名の増員を考慮されたい旨、申し出あり。

二、昭和58年度推定決算案および昭和59年度予算案について

別紙昭和58年度一般会計収支決算書および昭和59年度一般会計収支予算案について検討する。

イ 運営準備積立金繰入れを二〇〇万の予算を三〇〇万に増す。

ロ 総会開催地への補助金を一三〇万に増す。

ハ 弔慰費の科目名を弔慰見舞費と改正する。

三、荻野吟子氏女医公許一号から百年を迎えるにあたり記念行事について

イ 出生年月日 嘉永4年(一八一一年) 3月3日

ロ 死亡年月日 大正2年6月23日

ハ 墓地 東京都共同墓地雑司谷霊園

ニ 記念行事については、次回に検討する。

四、その他

(1)昭和59年度役員会開催予定日について

別紙予定表を参照し、11月24日の予定のところ飛び石連休のため一週繰り上げ17日開催とする。

(2)昭和61年総会開催地について

宮城支部へ開催依頼をしたが当地の役員改選を控えているので今回は辞退したいとの返事あり、したがって新潟支部へ開催依頼をする。

(3)国際女医学会について

国際女医学会地域区分について



は、とくに反対しない。

ロ 国際女医学会より名誉を受けた人、各大学の教授、助教授の人数、功労者、日本女医会会員数などについて調査あり。

ハ 総額一万ドルの寄付を集めているので、日本からも寄付をしてほしいとの依頼あり。

ニ 平和に関する人権実現のための決議案について

すべての人の平和に関する人権を認め保護するという条文を世界人権宣言に加える必要があることを国連総会に考慮するよう要請し署名を願う。

(4)冷蔵庫購入について

修理不能のため冷蔵庫を購入する。

(5)東洋ホテルよりパンフレットおよび割引券発送について

全会員に東洋ホテルの使用割引券およびパンフレットを発送することを了承する。

(6)青山宮野ビル管理委託変更について

ビルの維持管理を管理会社に委託しているが、組合の自主管理と一部、他の業者に委託するように変更する。

(7)国連アジア太平洋経済社会委員会(エスカップ)地域政府間会議について

日時 昭和59年3月26日~30日

場所 経団連会館

五万円を寄付する。

(8)昭和59年講演研修会について

日時 昭和59年10月27日(土)

常任理事会終了後

場所 京王プラザホテル

(9)ゴメス国際女医会長訪日の際に歓迎会を行なう予定。

報告事項

(1)吉岡弥生賞受賞者発表

社会に貢献した会員

佐伯輝子(神奈川支部)

昭和54年以来横浜市寿町診療所に勤務し、心身ともに荒廃した人々の診療にあたった功績

内規案の検討と会長、副会長の選出方法について検討中

以上 野沢 良美

日時 昭和59年4月21日

場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

理事会議事録

国際女医会カナダ会議のみ参加コースの説明と担当者変更の挨拶あり。

席務報告 久保田常任理事

3月22日 アジア太平洋地域婦人国際シンポジウムについて柳瀬常任理事出席。

3月23日 国際婦人年連絡会へ柳瀬常任理事出席。

3月24日 理事会を行なう。

3月26日~30日 「国連婦人の十年」一九八五年世界会議準備のためのエスカップ地域政府間会議に国際女医会より柳瀬、佐野両常任理事出席。

3月31日 ゴメス国際女医会長来日につき歓迎会を行なう。

4月9日 婦人問題懇親会に柳瀬常任理事出席。

4月13日 広報部会開催。

4月18日 会計監査を行なう。

その他

(1)故雪吹静枝先生のご遺族より香典の礼状あり。

(2)日本女医会学術研究助成授与者児玉浩子会員より礼状あり。

(3)日中医学協会より訪中の案内あり。

連絡事項

視察団募集の案内

(4)一九八五年度第一三回CWAJ海外留学奨学生募集について

議題

一、定時総会について

(1)会務報告について

別紙昭和58年度会務報告、事業報告、特別会計報告、一般会計収支決算、昭和59年度事業計画案および一般会計収支予算案等について検討する。

(2)評議員会、総会の議題について

イ 昭和58年度一般会計収支決算

ロ 剰余金処分案

ハ 昭和59年度事業計画案

ニ 昭和59年度一般会計収支予算案

ホ 次々期総会開催地について

(3)評議員会次第

会長挨拶 司会 荒木 律子

報告 三神 美和

1 会務報告及び事業報告

2 昭和58年度特別会計報告

吉岡弥生賞基金 明石 み代

国際女医会議記念事業基金 蓮井 敏子

年金 ルーペンゲン

議長選出 議事録署名人選出 議事 第一号議案 1 昭和58年度一般会計収支決算 石川 文子

2 剰余金処分案

石川 文子

会計監査報告

西山喜代子

第二号議案

昭和59年度事業計画案

学術部 藤井 信子

事業部 石原 幸子

渉外部 柳瀬 路子

広報部 八木 貞子

第三号議案

昭和59年度一般会計収支予算案 鶴川美登里

第四号議案

次々期総会開催地について 三神 美和

三神 美和

(4)総会次第

会長挨拶 野沢 良美

三神 美和

報告

物故者への黙禱

1 会務報告及び事業報告 久保田くら

2 昭和58年度特別会計報告 佐藤千代子

吉岡弥生賞基金

国際女医学会記念事業基金

年金 ルーベンゲン

3 国際連絡書記報告 山崎 倫子

議長団選出

議事録署名人選出

議事

第一号議案

1 昭和58年度一般会計収支決算 佐藤千代子

2 剰余金処分案

佐藤千代子

会計監査報告

西山喜代子

第二号議案

昭和59年度事業計画案

学術部 橋本 葉子

事業部 石原 幸子

渉外部 柳瀬 路子

広報部 八木 貞子

第三号議案

昭和59年度一般会計収支予算案 丸山 芙実

第四号議案

次々期総会開催地について 三神 美和

三神 美和

表彰

1 学術研究助成金授与

2 吉岡弥生賞 小俣喜久子

閉会の辞

二、昭和61年総会開催地について

新潟支部より小人数のため開催は無理であるとの返事あり、開催地は未定。

三、荻野吟子女医百年の記念行事について

(1)偉大なる女史の功績を讃え記念事業の一つとして荻野吟子賞を設定し会員よりその基金を募金する。

ただし一口千円(幾口でも)

なお、一般会計の公衆衛生費からも基金の一部として毎年支出することが可能である。

(2)荻野吟子女史に関して今秋にも講演会を行ないその志を会員および一般にも広く伝える。

(3)荻野吟子女史のご命日である6月23日に東京都共同墓地雑司が谷霊園を役員有志で墓参献花の予定。

四、講演研修会について

(1)岡崎国立共同研究機構 生理学研究所の江橋節郎教授に講演を依頼し、開催期日は本年10月か11月を予定している。

(2)来年の講演は御手洗玄洋教授の予定。

五、その他

(1)長沼静きもの学院より当会会員名簿購入依頼に応じ五千円で販売する。

(2)国際女医学会について

イ 国際女医学会開催国について

・三年後にイタリアのソレントで開かれる。

・それからさらに三年後の開催についてはケニアのナイロビから招待がきている……

・カナダ会議で決定する。

ロ 国際女医学会に於ける連絡事項については会誌に掲載する。

ハ 核戦争防止のため有志に核戦争反対の署名依頼があった。

ニ 日中医学協会が財団法人になるにあたり当会は発起人として協力する。

(4)5月26日開催される神奈川総会の出席者は、現在一八五名であり当日は、二〇〇名を越えと予想される報告あり。

(5)CWAJ海外留学奨励学生募集要項を次回会誌に掲載する。

会員動静

以上 久保田くら

野沢 良美

香川支部 入江恭子 昭20年卒

関西支部 関西医 昭17年卒

福岡支部 重松南生子

佐賀支部 夏秋まき子 昭49年卒

東女医 昭49年卒

新卒入会会員(敬称略)

宮城支部 狩野恵子 杏林大

物故者会員(敬称略)

港支部 西村治子

昭59年2月5日逝去

集記

編後

ご多忙中を諸先生方が原稿を快くお送り下さいまして広報部も張り切って楽しく仕事を致しております。今回は神奈川県で開催された日本女医学会総会の記事の特集しましたが、私も神奈川支部会員としてまずまずつつがなく終えましてほっと致した所です。評議員会も時間も少なく、ご出席の先生方に発言して頂く時間が大変少なかった事をおわび申し上げますが、発言の代りにこの日本女医学会誌もご利用頂きたく存じます。中山先生の意義あるお話も面白く頂きましたし、観光旅行も一生の思い出となる事と思います。

一方外を見ますと健康保険問題をはじめいろいろの政治問題、急速に進歩する医学の諸問題等女医もまた



もに受けねばならぬ事が多々起こりつつあります。日本女医学会も強固なものにしておかなければという感じがひしひしと致します。終りにお暑さも誠にきびしい折、どうぞ皆様ご健康である事をくれぐれもお祈り申し上げます。(川口)

昭和59年7月20日 印刷  
昭和59年7月25日 発行  
編集人 八木 貞子  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8  
177 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医学会  
TEL(498)〇五七一  
東京都文京区水道1-5-16  
株式会社 金剛出版

制作 株式会社 金剛出版